



うまい・きれい かほく米づくりの運動では10の技術の実践を推進しています。確実に実践しましょう。

推進技術	目標	チェック
1~7	1. 播種量 (うす播きの励行) 2. 育苗日数 (健苗の育成) 3. 植付本数 (細植えの励行) 4. 栽植密度 (優良茎の確保) 5. 適正な施肥 (栄養凋落防止と登熟向上) 6. 田植え時期 (早植えの防止) 7. 中干し・溝切り (遅発分けつの抑制)	
8	<b>除草・防除</b> (畦畔等除草とカメムシ防除の徹底)	・ 7月上旬までの追加除草 ・ 水稻の生育ステージにあわせた適期防除の実施
9	<b>水管理</b> (飽水管理の徹底)	・ 中干し後から出穂までの約 <b>1か月</b> (コシヒカリ) の飽水管理 ・ 出穂から刈取り直前までの <b>1か月以上</b> の飽水管理
10	<b>刈取時期</b> (適期刈取りの励行)	・ 籾の黄化程度に応じた刈取り

薬剤の使用基準を守って安心なかほく米づくり

病害虫防除後に栽培履歴へ記入しよう!

## 水稻の生育はゆめみづほ・コシヒカリ (平坦部)・コシヒカリ (山間部) いずれも前年並みとなっています。

生育状況 (管内生育観測田平均)

ゆめみづほ (7月18日調査)	草丈 (cm)			茎数 (本/株)			茎数 (本/m <sup>2</sup> )		
	本年	前年	平年	本年	前年	平年	本年	前年	平年
	89	91	86	27	29	28	534	627	526

コシヒカリ (7月18日調査)	草丈 (cm)			茎数 (本/株)			茎数 (本/m <sup>2</sup> )		
	本年	前年	平年	本年	前年	平年	本年	前年	平年
	83	92	85	24	24	19	476	538	401

- ◎ゆめみづほの出穂期は7月14日頃
- ◎コシヒカリの出穂期は平坦部で7月27日頃、山間部で8月1日頃
- ◎暑さの影響により、コシヒカリについては、平坦部・山間部ともにほ場により生育のばらつきがあります。
- ※ひやくまん穀につきましては別途ひやくまん穀通信でお知らせします。

## 基幹防除を徹底し斑点米を追放しよう!!

### 石川かほく環境にやさしい農業のすすめ ~粒剤によるカメムシ防除~

**キラップ粒剤** カメムシ類、ウンカ類 (飛散の少ない粒剤での省力散布をおすすめします。)

散布適期：出穂期 (穂が半分くらい出揃った頃、収穫14日前まで) 散布量：3kg/10a (湛水状態で散布)

粉剤による  
カメムシ防除

**ゆめみづほ出穂期**  
7月14日頃

②出穂7~10日後  
ビームスタークル粉剤5DL

③出穂14~17日後  
ダントツ粉剤DL

①出穂前に散布  
ビームトレモンセレン  
粉剤DL

**コシヒカリ出穂期**  
平坦部 7月27日頃  
山間部 8月1日頃

②出穂7~10日後  
ビームスタークル粉剤5DL  
散布適期：  
平坦部 8月3日から  
山間部 8月8日から  
散布量：3~4kg/10a

③出穂14~17日後  
ダントツ粉剤DL  
散布適期：  
平坦部 8月10日から  
山間部 8月15日から  
散布量：3~4kg/10a

※ビームスタークル粉剤5DL及びダントツ粉剤DLは、散布後8日以上経過しないと収穫できません。

※散布にあたっては強風の日を避け、飛散しないように注意してください。

裏面に続きます

# 斑点米カメムシ類多発!!

7月3日付で、斑点米カメムシの多発注意報第2号が発令されました。出穂した水田へのカメムシの侵入が確認されていますので出穂後の防除を徹底してください。

また、7月18日にかほく地区の斑点米カメムシの水田侵入量を調査したところ、平年を上回る1地点平均4.8頭となりました。特にホソハリカメムシの生息数が多い傾向にありました。斑点米の多発が懸念されますので、出穂後の防除を徹底しましょう。

## 《粉剤体系》

3回目（出穂後14～17日後※） ダントツ粉剤DL 3～4kg/10a  
※2回目防除の1週間後

## 《粒剤体系》

（出穂前にイモチエーススタークル粒剤を散布した場合は不要）  
出穂期（穂が半分くらい出そろった頃※） キラップ粒剤 3kg/10a  
※散布時期がわからない場合はJAの担当TACまで問い合わせください。



ホソハリカメムシ

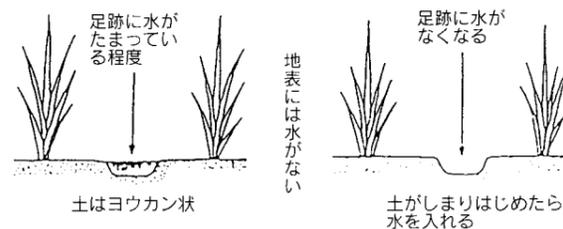
これが大事!

# 乳白粒・胴割粒の発生に注意!!

土壤の水分不足や、出穂期～出穂20日後の高温（日平均気温27℃以上）により、乳白粒・胴割粒が発生しやすくなります。

飽水状態の水管理とは

## 乳白粒・胴割粒発生防止 ～最後の決め手は水管理～



○ **3～4日ごとの通水で根の活力を維持!!**  
＝常に田面が濡れている状態を維持

- 通水は夕方に行い、刈り取り前5日頃まで継続しましょう。
- フェーンには要注意：フェーンの予報がでたら通水、湛水して備えましょう。
- 日中の常時湛水は厳禁：根が傷んで乳白粒、胴割粒の発生を助長します。

※今年は降水量が少なく、水不足が予想されますので、可能な範囲で取り組みましょう。

管内の多数の圃場で紋枯病が確認されています。  
上位葉へ進展している場合は追加防除を行いましょう。  
農薬を使用する際は収穫前日数に注意しまししょう。



モンガリット1キロ粒剤  
使用量：1～1.3kg/10a  
使用時期：収穫30日前まで



モンセレンフロアブル  
希釈倍数：原液～1500倍  
散布液量：100ml～25L/10a  
使用時期：収穫21日前まで

- ※イノシシの被害が見られた場合は、JAもしくは農業共済（239-2555）までご連絡下さい。
- ※かほく米米情報第8号（8月7日発行予定）において、ゆめみづほの刈取適期をご案内いたします。
- ※かほく米米情報第9号（8月下旬発行予定）において、コシヒカリの刈取適期をご案内いたします。

◎営農に関するお問い合わせはJA（☎288-7555）、津幡農林事務所（☎289-4158）におたずねください。

適切な水管理で元気な稲！  
乳白・胴割れを防止しよう!!

出穂後の防除を徹底し、斑点米を追放しよう!!